



子ども樹木博士 ニュース

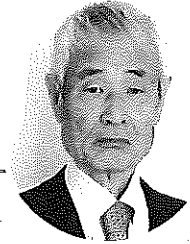
2016 - 12

No. 65

子ども樹木博士認定活動推進協議会

巻頭言

森を歩き・森を学び・森を楽しむ



元東京農業大学教授 河原 輝彦

昭和 50 年代まで、森林に求められた主な機能は木材生産機能でした。そのために天然林は大面積に皆伐され、その跡地にスギ、ヒノキ、カラマツなど比較的成長の早い針葉樹が植えられ、その面積は約 1,000 万 ha にもなっています。しかし最近、国民は木材生産機能よりも、森林の持つ水資源、国土保全、生物多様性、風致景観、レクリエーションの場など公益的機能(環境保全機能)に関心が集まり、天然林が注目されるようになってきています。いずれも重要な機能ですので、それら両機能を十分に理解してもらう必要があります。そのためには森林・林業に関わるインストラクターをはじめとした人たちは、科学的(生態的)な知識を持つことは必要ですが、一方で色々な森林・林業を多く見ることも非常に大切なことです。

日本は南北に長く標高差も大きいことから、森林・林業は地域によって大きく異なっています。例えば、スギ林やヒノキ林以外の森林を見たことのない人は、北海道のトドマツやエゾマツの森をイメージすることは難しいことと思います。しかし、一度そのような森を歩き、観察したことがあれば、およその様子をイメージすることができます。すなわち「百聞は一見に如かず」です。実際に森を歩くことによって今までの知識になかったこと、不思議なことが出てくると勉強し学

びたくなると思います。

今年 9 月、北海道渡島半島の南限のトドマツ林と北限のヒバ林、両樹種が混交している林を見に行ってきました。トドマツ林や青森ヒバ林を多く見てきましたが、両樹種の混交林を見るのは初めてで、その様子をイメージすることはできませんでした。現地を見てヒバは全体的に生育していましたが、トドマツ・ヒバ混交林は尾根筋のみに生育していました。これは最も耐陰性の強いヒバが肥沃な土地を占拠してしまうためであると思います。印刷物や聞き学問だけではなく多くの森を歩き・観察していくと、それぞれの森林の生態系の違いなども理解できるようになってくると思います。すなわち「森のことは森に聞け」です。森林・林業についての知識が増えてくると、山歩きがますます楽しくなり、出かける機会も多くなります。そして、森林・林業をより理解できるようになれば、他の人たちにも伝えたい・教えたという思いが大きくなります。そのような人たちが増えていけば森林・林業に対する国民の関心や理解を益々高めていくことの手助けになります。

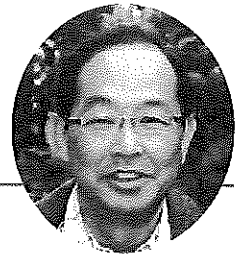
指導的な立場にある人は、「森を歩き、森を学び、森を楽しむ」を基本にして子どもたちも含めて多くの人たちに山の魅力を伝えていただければ幸いです。

【目次】

巻頭言	森を歩き・森を学び・森を楽しむ	元東京農業大学教授 河原 輝彦	1
特集Ⅰ	森のエピソード(7) —センリョウ・マンリョウ—	森林インストラクター 小菅 智彦	2
特集Ⅱ	観察会テンバリ日記(3)	森林インストラクター 樹木医 岩谷 美笛	3
事例報告	府中第一小学校の植物マイスター	東京農工大学 FS センター 渡辺 直明	4
シリーズⅠ	樹木名の話(3) —冬に青い樹はソヨゴかモチノキか—	森林植物研究家 埴田 宏	5
シリーズⅡ	東南アジアの木々たち(33) —ベトナム北部ハロン湾①—	自然と植物の観察会 TREECIRCLE 梅本 浩史	6
子ども樹木博士質問コーナー(45)	茨城県植物園緑のインタープリター・森林インストラクター 堀内 孝雄		7
事務局だより	平成 28 年度の子どもの樹木博士認定活動の実施状況		8



森のエピソード (7) —センリョウ・マンリョウ—



森林インストラクター 小菅 智彦

もうすぐお正月ということで、今回は縁起のいい樹木をとりあげてみます。昔から千両箱とか千両役者という言葉があるように、価値のあるものの例えとして旧貨幣単位の千両を用いますが、樹木にもこの金額をそのまま名前にしてしまったセンリョウ（千両）という樹種があります。更にその上をいく大金を名前にしたマンリョウ（万両）という樹種もあります。どちらも高さ1メートルに満たない低木ですが、冬に赤い果実をつけて年を越すのでよく目立ちます。両方とも同じ仲間のように思えますが、センリョウはセンリョウ科、マンリョウはヤブコウジ科と、科名が異なります。よくみると、センリョウの実が葉より高い位置に上向きにつくのに対して、マンリョウの実は葉の陰に隠れるように垂れ下がります。また、葉を見比べてもセンリョウが対生の葉を持ち、縁に鋭い鋸歯があるのに対し、マンリョウは互生の葉で、縁の鋸歯も丸味を帯びた波状になります。

しかしお金の金額を名前にした樹木はこれだけではありません。ヤブコウジ科のカラタチバナは別名ヒャクリョウ（百両）と呼ばれています。庭木栽培が盛んだった江戸時代のカラタチバナは非常に高価で百両以下では手に入らなかったため、ヒャクリョウと呼ばれるようになったようです。

また、ヤブコウジも別名ジュウリョウ（十両）と呼ばれ、古くはヤマタチバナと呼ばれていたものが、山林などの藪に自生して赤い実をつける様子をコウジミ

カン（柑子蜜柑）に例えたことから転じてヤブコウジとなったものです。ヒャクリョウに比べて実が小さく、つき方が少ないことからジュウリョウの別名を持つようになりました。

更に、アカネ科のアリドオシは別名イチリョウ（一両）と呼ばれ、一説には葉のつけ根から出ている鋭い刺がアリをも刺し通すという意味から“蟻通し”、また、赤い実が翌年までもつことから、いつも実が“在り通し”になったという説もあります。しかし、実はせいぜいひとつからふたつしかつきません。

さて、これらの樹種を並べてみると、おおよそ金額の順にイチリョウ、ジュウリョウ、ヒャクリョウ、センリョウ、マンリョウと赤い実の数が増えていくので、数字が増すほどお金に見立てた実の数も多くなり、確かにこのネーミングは理にかなっているようです。また、実を葉の上に掲げるセンリョウに比べて、葉の陰にひっそり実をつけるマンリョウは、植物の世界でも本当のお金持ちは実に奥ゆかしいものだと浮世の常を納得してしまいます。

最後に景気のいいエピソード。イチリョウがアリドオシの別名を持つことから、歳末の植木市では、センリョウ、マンリョウ、アリドオシを寄せ植えにして「千両、万両、有り通し！」と商売繁盛の願をかけた鉢植えが並びます。金運に恵まれることを願った、いかにも洒落のきいた縁起物ですね。皆さまもどうぞよいお年をお迎えください。



センリョウ（京都・東福寺即宗院）



マンリョウ（京都・東福寺即宗院）

特集Ⅱ

観察会テンパリ日記 (3)



森林インストラクター 樹木医 岩谷 美苗

教員をやっている旦那から「毎年、修学旅行で行く場所だったんだけど、あまりにも話が長いボランティアが多くて、コースから外した。」という話を聞きました。これは……他人事ではありません。私は「あれもこれも教えたい。」と詰め込めるだけ詰めこんで、良かれと思ってしゃべっていました。植物にまったく興味がない人は、「いつ終わるんだろう？」と苦痛でしかないでしょう。

旦那に「子どもだったら“木は生き物なんだよ”だけで十分。」と言われ、「そんなんでいいの？」と最初は疑っていましたが、実際やってみると受けがいいのです。旦那曰く「つかみさえうまくいけば、あとは独壇場」とのこと。話を聞くだけだと、子どもは20分も持ちません。私はちょいちょいクイズを出して、飽きさせないようにしました。それでも飽きた場合、奥の手を使います。食べられる虫の話をするのです。

「このモンクロシャチホコって毛虫は、おいしい虫ランキングでなんと5位なんです！」と言ったなら、ポーっとしていた子どもが途端にざわつきます。もちろん興味本位ではなく、世界的に虫は食糧として重要な位置づけであること、日本人はもっと広い世界を知らないといけなことを強調し、教員・親相手に非常線をはります。こんな話、女子が嫌がると思うでしょう？ 結果は逆で「やだー」と言いながら、「見せて！」と食いつくのは意外にも女子なのです。こうやって変化をつけ、なんとか話を聞いてもらえるようになってきました。

聞くだけではなく、作業するのは効果的です。学校から「何かワークシートを作って」と頼まれ、「大事なことを書こう」とだけ書いた表を作っていたら、旦那に「子どもは何が大事ななんてわかんないよ。あとでまとめやすいようにワークシートは作るんだよ。」と釘を刺されました。うーんどうしよう。

とりあえず私が見てもらいたいことを観察するシートを作りました。例えば「イチヨウの二又の葉脈を探

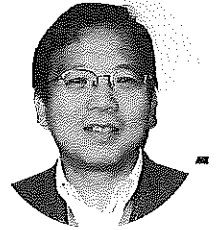
せ」「ヤマボウシの葉脈のわき毛はあるか？」等。話の途中で「シラカバの友だちはベニテングタケって書いて。ここ大事！」と勉強ばくないメモをさせるのも、なんとなく雰囲気がよくなります。

今は情報があふれています。相手に合わせて内容を選び、シンプルに提供すると伝わる気がします。観察会は、相手の観察が優先課題と言えるでしょう。



事例 報告

府中第一小学校の植物マイスター



東京農工大学農学部附属 FSセンター 渡辺 直明

府中大國魂神社のケヤキ並木の近くにある府中第一小学校では、毎年8月の終わりに植物マイスターという取り組みをやっていて、平成28年で10年目になります。

学生が歩きながら数名から10名の児童に解説し、試験後に段級を認定する仕組みは子ども樹木博士のシステムをそのまま使い、校庭にある樹木のみを対象としています。東京農工大学は練習や試験材料の準備調整や解説スタッフを担い、試験や運営全般を小学校側が担当するという役割分担で協力しています。

校庭の木を全部覚えるのが植物マイスターで、卒業後には、名無し「あの木」ではなく、朝礼台横のカイズカイブキやプール北のケヤキなどと呼べるのが目標です。3年生から6年生までの児童の希望者が対象で保護者も参加し、毎年80人前後の参加者です。

最初の年にすべての樹木を調べたところ、この学校には96種あり、その位置図を作成しました。その後、枯れたり、工事で失ったものもありますが、鳥が種を運んできた実生苗が見つかったり、関係者が植栽したものもあり、現在100種を超えています。ただし、特殊な庭木は利用できません。看板がつけられる大きさの木にはペンキで名前が書かれた板の名札を設置しています。100種が特別多いかという点、そうでもありません。北区の赤羽の小学校でも90種以上見つっています。

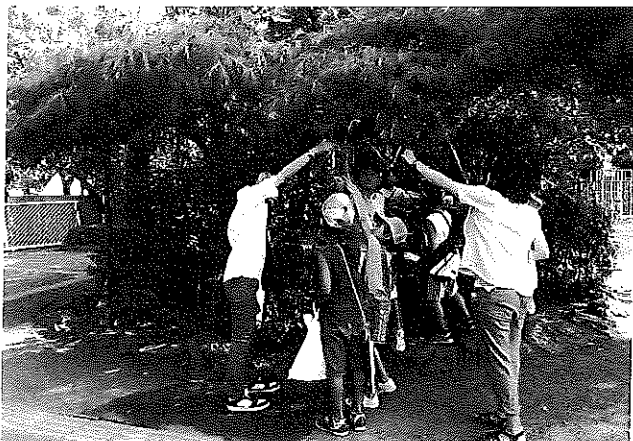
児童に教える内容は学生に任せています。100を知る者が10を教えると自習を促していますが、樹種の識別点を教えるよりは、葉っぱの形や質感と樹種名を

印象付けすることが大事です。学生に推奨していることは話の中に動きの要素を入れることです。つまり、匂いを嗅いでご覧とか、葉っぱ触るとザラザラしているね、というように五感に訴えるということです。ハナミズキの葉をゆっくり引っ張ってちぎると、白い繊維が1-2本伸びます。鼻水みたいだね、だから、ハナミズキと呼ぶのかなというような冗談はインパクトが強いのか、正解率が高くなります。

一つ、重要なルールがあります。名札のついた樹木の前で説明するか、解説用のプリントを使って樹種名を音読することです。これは聞き間違いなどを防ぐためです。子どもにとっては大半の樹木名は初めて聞くもので、大人がラテン語の学名を覚えるようなものです。

実は裏メニューもあります。児童が植物マイスターのプログラムを受ける前日に、小学校の教員を対象にして予行演習を行います。この教員用のプログラムでは校庭の木だけではなく、教科書に名前が出てくる木を扱ったり、目立つ実のなる木や匂いが特殊な木だけを対象にしたりしています。また、大人である教員は同定はできなくても、名前だけを聞いたことがある状況にあるので、児童が新しい名前を記憶する努力を体験できるように、長い名前だったり、一般に知られていない樹種を中心に組み立てたり、毎年、趣向を変えて楽しんで貰っています。

このメニューで子どもたちの苦勞を身にしみるためか、先生方は植物マイスターの行事で特別優しく児童に接しているような気がします。



野外での解説



長い廊下を使った練習風景

樹木名の話 (3)

—冬に青い樹はソヨゴかモチノキか—

森林植物研究家 埜田 宏



12月になっても緑色の葉が残っているのは常緑樹。常緑樹でないものは落葉樹、落葉の反対は常緑とするから混乱します。「常緑樹は落葉しない」と言い切る人が少なくありません。街路樹の落葉掃除が大変だから常緑樹にせよとか、スギ林には落葉が無いから水を貯えないうも。そもそも、落葉しない樹木は存在しません。むしろ、1年間の落葉量は常緑樹林の方が落葉樹林より多いのが普通です。

枯れ葉を落とさないまま冬を越すヤマコウバシやカシワを常緑樹と呼ぶ人はいません。落葉しているかどうかではなく、緑葉の有無で区別するのが自然だからです。生態学では、常緑林、夏緑林、雨緑林という区分があります。「落葉樹林」という表現では、冬季の落葉、乾季の落葉が区別できないからです。

緑葉を強調した名に「アオキ、青木」があります。緑も青も植物の葉の色や若々しいさまを表す語です。冬でも葉が緑であることを強調した名が「冬青」、歳時記では冬の季語、「冬青の実、そよごのみ」とされ、広辞苑では、ソヨゴの別称、モチノキの漢名と2つの植物になっています。冬青というのは漢名（古代中国の植物名）で、西安や北京などでは冬の緑葉が珍しく思われ、この名が生まれたのでしょう。



日本で冬青とされているソヨゴ

冬青に限らず、中国の植物名を日本の植物に当てはめるのは難しいものです。貝原益軒の大和本草(1709)では、ネズミモチ、アオキ、ナナミノキの3種があて

られ、寺島良安の和漢三才図会(1712)ではマサキとされています。小野蘭山の重修本草綱目啓蒙(1844)では「モチには種類が多く、皆赤い実を結ぶ、冬青はその総称」と書かれ、フクラモチなどソヨゴの地方名が最初に、ナナミノキ、モチノキが続いています。



本来の冬青はナナミノキ(ナナミノキ)

江戸時代後期からは、冬青といえばソヨゴと定まったようです。しかし、近代文学者のうち、芥川龍之介、伊藤左千夫、北原白秋、若山牧水は、冬青をモチノキと読ませ、ソヨギ(ソヨゴ)とした島崎藤村は少数派のようです。

では、現代中国の植物分類学ではどうなっているのか。世界共通の学名で調べると、冬青は、牧野日本植物図鑑に書いてあるように、ナナミノキを指します。ソヨゴは具柄冬青、モチノキは全縁冬青、クロガネモチは鉄冬青と別の名がついています。

もう一つ重要なことがあります。冬青の名を得た樹木は、モチノキ科の樹木であって、ブナ科やクスノキ科の樹木は常緑樹でも入っていません。赤い実をつけることが必要なのです。その条件に合うのがモチノキ属の常緑樹なのです。ヨーロッパでホリーと呼ばれる樹木(セイヨウヒイラギ)もモチノキ属で、モクセイ科のヒイラギの仲間ではありません。落葉樹林に囲まれた中・北部ヨーロッパの人々は、冬でも緑の葉を持ち、血の色の実をつける樹木に強い生命力を感じていました。その考え方が中国に伝わり、冬青という名を得たのだと思われます。

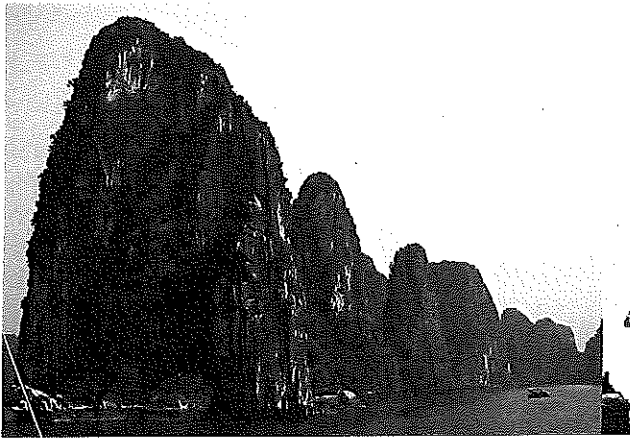
シリーズⅡ

東南アジアの木々たち (33)

—ベトナム北部ハロン湾①—



自然と植物の観察会 TREECIRCLE 梅本 浩史

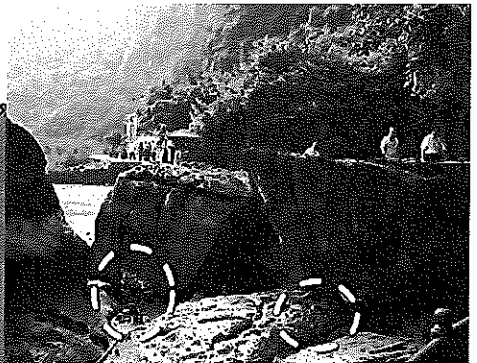


紅葉の季節を迎え、朝晩の冷え込みを実感する毎日ですね。これから暫くは、寒さで身体の免疫力も落ちて来ますので、体調管理には、十分留意してお過ごし下さい。さて、寒い中で南国の植物のお話を書くのは、なかなか想像力を要するのですが、東南アジアの美しい風景を織り交ぜながら、またご紹介してゆければと思います。

ベトナム北部のクアンニン省には、大小3,000もの島々が散らばる「ハロン湾」が広がっています。世界自然遺産に登録されたこの地を、初めて訪ねたのは2007年のことでした。途方もない大きさの岩山や奇

岩が、海の中から無数にそびえ立つ壮大な景観。切り立つ岩の島々の前では、大型木造船も、米粒ほどにしか見えませんでした。

ただ、このハロン湾の沿岸部やその島々の周囲では、マングローブ林が減少しており、この70年ほどで半分以下の面積にまで減ってしまったそうです。2009年から、国際交流も兼ねたマングローブ植樹プロジェクトが実施され、クアンニン省の大学・専門学校生、ハロン湾管理局職員、大阪府立大学を中心に、マングローブ構成樹種(八重山姪木、雄姪木、角薺柑子など)が植樹されたとのことでした。



右下の破線はマングローブ植樹が開始されたエリアの一つ

子ども樹木博士質問コーナー (45)

茨城県植物園緑のインタープリター・森林インストラクター 堀内 孝雄



Q 近くの川沿いの空き地に、ヒガンバナの小群生が見られました。その後、かなり離れたところに2か所の群生が見られるようになりました。このヒガンバナの移動を不思議に思っています。

A ヒガンバナの群生は多くの人に不思議がられる大変興味のある問題です。もともとヒガンバナは古い時代に中国から入った帰化植物です。今、日本で見られるヒガンバナは、すべて二倍体と言われ結実しません。しかもタネがついたとしてもその種子は発芽しないといわれます。このため、ヒガンバナが増えるためには、人が、球根を植えるか分裂した小球根か鱗片が運ばれない限り、新たな個体は、生じません。ヒガンバナの分球は予想外に早いようで、地表面

に近いところで、分球しやすいことが特徴になっていて、その分球は簡単に離れやすいようです。こうした条件のヒガンバナが、強雨に会うなどして土が流されたりすると小球根は分散しやすく、ヒガンバナの生育領域が広がるものと考えられます。

各地に見事なヒガンバナの群生が見られ、日本の農山村の秋の風物詩となっています。こうしたヒガンバナの群生は、もともと人がヒガンバナの球根を移植したものから生じたものと考えられます。ヒガンバナの球根は有毒ですが、水にさらすと良質の澱粉が得られるといわれます。昔、飢饉のときには、救荒植物として食用に利用されたと言われます。こうしてヒガンバナは、各地に拡散したものと考えられます。

Q 庭のフェンスにからみついたムベの実をみて、アケビですかと聞かれました。ムベですと答えると、ムベとアケビの違いを教えてくださいと言われました。

A アケビは普通アケビとミツバアケビのことを言い、アケビ科アケビ属の落葉性つる植物です。ムベは、同じアケビ科ですが、ムベ属に属する常緑性のつる植物です。したがって、ムベとアケビの大きな違いは、ムベは冬でも緑の葉をつけていることです。また、葉のつき方も違ってきます。ムベの葉は、互生し小葉が5から7枚の掌状複葉ですが、アケビは5枚の小葉からなる掌状複葉、ミツバアケビは葉3枚の小葉からなる掌状複葉が互生します。こうした葉のつき方を見れば、その違いが区別できます。

アケビの果実は、熟すと皮が二つに割れてきますが、ムベの実はこのようなことがないのでこの点も違

いの一つです。アケビもムベもその果実は熟すと中のゼリー状のものがあまく生食出来ます。アケビは、山歩きのおやつになります。果実をとりだしたアケビやムベの皮の中に肉味噌を詰めて油でからりとあげるなどして郷土料理の食材に使われています。



ムベの果実 (ひたちなか市) 2016.11.12

● ● 事務局だより ● ●

◆平成 28 年度の子ども樹木博士認定活動の実施状況 (平成 28 年 10 月末現在)

	実施日	実施団体等	都道府県	募集人員	参加人員	摘要
1	28. 4. 16	(公社) 高知県森と緑の会	高知県	20		高知市中央公園
2	28. 6. 5	西東京子ども樹木博士を育てる会	東京都	40	71	東京大学演習林 (西東京市)
3	28. 6. 16	NPO 法人森林遊びサポートセンター	北海道	23	23	札幌市立藤の沢小学校 5 年生、学校林
4	28. 6. 18	わくわく子ども教室 (川辺町)	岐阜県	20	8	山楠公園
5	28. 6. 19	(公財) 旭川市後援緑地協会カムイの杜体験学習館	北海道	20	20	カムイの杜公園
6	28. 6. 28	NPO 法人森林遊びサポートセンター	北海道	31	31	札幌市立駒岡小学校 5 年生、6 年生、学校林
7	28. 7. 7	オホーツク森の案内友の会	北海道	10	10	モイワースポーツワールド
8	28. 7. 17	十勝西部森林管理署東大雪支署	北海道	20	11	北海道立青少年体験活動支援施設ネイバル足寄
9	28. 7. 20	オホーツク森の案内友の会	北海道	29	29	訓子府町レクリエーション公園
10	28. 7. 23	(公財) 山梨県緑化推進機構	山梨県	15	8	山梨県立武田の森
11	28. 7. 24	北陸森林管理署	鹿児島県	41	41	伊佐市立本城小学校緑の少年団
12	28. 7. 26	千葉「子ども樹木博士」認定事業実行委員会	千葉県	100	100	君津市森林体験交流センター
13	28. 7. 30	藻岩山観光運営委員会	北海道	30	7	藻岩山登山道及びロープウェイ山麓駅舎周辺
14	28. 7. 30	たかつき環境市民会議	大阪府	30	30	高槻市上の池公園、高槻市立阿武山公民館
15	28. 7. 31	21 世紀の森と広場「子ども樹木博士」認定事業実行委員会	千葉県	11	11	21 世紀森と広場 (松戸市)
16	28. 7. 31	森林インストラクターしずおか	静岡県	25	26	浜松市佐鳴湖公園
17	28. 8. 11	福島民友新聞社、福島森林管理署	福島県	60	61	きぼっこの森 (国有林)
18	28. 8. 11	(公財) 山梨県緑化推進機構	山梨県	15	12	河口湖フィールドセンター
19	28. 8. 17	フェリックス練馬教室 (柳原高文氏)	東京都	40	40	群馬県水上水源の森
20	28. 8. 19	真庭森林組合	岡山県	15	15	勝山美しい森ビジターセンター
21	28. 8. 27	今津運動公園	福岡県	20	2	福岡市今津運動公園
22	28. 8. 28	東京農工大学農学部	東京都	80	80	東京農工大学農学部
23	28. 9. 11	北海道上川総合振興局南部森林室・北海道森林管理局・「木の町あさひかわ」木育を進める会	北海道	20	26	神楽岡公園緑のセンター
24	28. 9. 12	所沢市立若狭小学校	埼玉県	64	64	若狭小学校校庭
25	28. 9. 13	所沢市立若狭小学校	埼玉県	61	61	若狭小学校校庭
26	28. 10. 2	稲毛海浜公園「子ども樹木博士」認定事業実行委員会	千葉県	50	50	千葉市美浜公園
27	28. 10. 7	ふくおか森林インストラクター会	福岡県	31	29	みやこ町立犀川小学校校庭
28	28. 10. 16	県民公園新港の森管理事務所	富山県	30	11	新港の森 (射水市)
29	28. 10. 22	愛鷹広域公園	静岡県	20	19	愛鷹広域公園
30	28. 10. 30	篠山市農都整備課	兵庫県	30	30	せんじゅの森 (篠山市今田町)
計				1,001	926	

(注) 1. 実施団体から事務局に報告のあったもの及び事務局で独自に把握したものである。

2. 報告等が参加者数のみの場合は募集人数も同数として整理、また、募集人数のみの場合は参加者も同数として整理している。

◆実施結果のご報告のお願い

子ども樹木博士認定活動を実施しましたら、お手数をおかけしますが、実施結果のご報告をお願いいたします。年々報告数が少なくなっています。

報告用紙は当協議会のホームページから Word の用紙をダウンロードできます。また、報告用紙がない場合は、①実施団体名、②実施年月日、③募集人員、④参加人員、⑤対象者 (小学生、親子等)、⑥実施場所等を記載したメモを FAX 又はメールで子ども樹木博士認定活動推進協議会事務局までお送り願います。

子ども樹木博士ニュース

2016 年 12 月 1 日 No.65

子ども樹木博士認定活動推進協議会

〒112-0004 東京都文京区後楽 1-7-12 林友ビル 6 階

一般社団法人全国森林レクリエーション協会内

TEL : 03-5840-7471 FAX : 03-5840-7472

E-mail : kodomohakase@shinrinreku.jp

URL : <http://www.shinrinreku.jp/kyokai/kodomokyou.html>

<http://www.shinrinreku.jp/kodomo-n/main.html>